

令和6年度(令和5年度対象)

教育委員会の点検・評価報告書

令和6年8月

養父市教育委員会

目 次

はじめに	P 2～3
教育委員会の点検・評価について	P 4～6
1 趣旨	
2 対象	
3 点検・評価の方法	
4 学識経験者の活用	
養父市教育委員会の令和6年度（令和5年度対象）点検・評価について （総括意見）	P 7～10
令和6年度（令和5年度対象）養父市教育委員会評価調書	P 11～21
こども学び課	
・発達や学びの連続性を踏まえた乳幼児教育の充実を図る	
・多様な遊び・体験を通して自立と協同の態度を培う	
・子どもが安心して遊べる・学べる環境づくりを進める	
・「生きる力」を育む教育を推進する	
・子どもたちの学びを支える環境を充実する	
教育課	
・「生きる力」を育む教育を推進する	
・子どもたちの学びを支える環境を充実する	
・主体的に生きるための学びと場の充実	
歴史文化財課	
・歴史文化遺産の整備	
生涯スポーツセンター	
・スポーツ施設の長寿命化の推進	
学校給食センター	
・食育推進とともに、衛生管理を徹底し、安全、安心な学校給食を提供する	

はじめに

本市では、「養父市教育大綱」等を踏まえて策定された「第3期 養父市教育振興基本計画」に基づき、「令和5年度 養父市教育推進の重点」において乳幼児教育、学校教育、社会教育の各分野で重点目標を掲げ、保護者や地域の皆様のご理解・ご協力、協働と参画をいただきながら、引き続き「0歳からの一貫した教育環境づくり」ための諸施策を推進しました。

乳幼児教育の充実については、子ども一人ひとりの発達の特徴を理解し、豊かな心情や物事に自ら取り組もうとする意欲、健全な生活を営むために必要な態度など「生きる力」の基礎を育む質の高い教育・保育に、家庭や地域と連携して取り組みました。合わせて不適切な保育が行われないよう園内外での研修を充実させ、人権に配慮した教育・保育の意識を徹底し、「一人ひとりを大切にする教育・保育」を実践しました。また、遊ぶ・学ぶ環境の充実については、認定こども園及び保育所が安全で安心して過ごせる場所となるよう適正な維持管理と、安全管理を徹底した送迎バスの運行に努めました。また、スマートフォンアプリを使った園通信の配信など、家庭や地域に対し積極的な情報発信に取り組み、開かれた園づくりを進めました。

学校教育では、学力の向上と地域とともにある魅力と特色ある学校づくり、学ぶ環境の充実に重点的に取り組みました。

学力の向上については、読解力、対話力、レジリエント力、地域貢献力、ICT活用能力を高めるとともに、“授業第一”をスローガンに、基礎的・基本的な知識・技能の着実な定着に向け、学習の系統性を重視した指導方法を工夫し、読書時間の確保、ICT機器の積極的な活用などを通して、“好き”や“夢中”のある学びをプロデュースしました。また、学びの個別最適化を進めるため、個別最適な学びと協働的な学びに対して一体的に取り組み、主体的・対話的で深い学びを進めました。

地域とともにある魅力と特色ある学校づくりについては、一部の学校に地域コーディネーターを配置し、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校づくり」を推進しました。また、ふるさと意識を醸成しながら地域に参画する力を高めるための「やぶ・ふるさとキャリア教育」の推進や、学校や地域の強みを生かした教育活動を展開するための学校の課題に応じた職員研修、学校のアイデアを生かした特色ある教育活動を支援する「スクールチャレンジ事業」の実施に取り

組みました。そのほかに、部活動の地域移行に向け、部活動指導員の配置を進めました。学校給食では、衛生管理を徹底し、安全・安心な学校給食を提供するとともに、食育を推進しました。学ぶ環境の充実については、インクルーシブな環境づくりにより学びの環境を整えるため、学校施設維持修繕工事を進めました。また、子どもセンターを核として、福祉、教育をほっとステーションにより有機的に結び付けました。

社会教育では、「社会的処方」の視点を踏まえ、地域や人のつながりづくりを促進し、市民の学びの充実を図るとともに、放課後子ども教室や学校支援活動を実施するなど、地域ぐるみで子どもを育てる環境を整備し、学校・家庭・地域の連携、協働を推進しました。また、文化財等歴史文化遺産の活用については、史跡八木城跡や青谿書院記念館の整備を進め、国指定文化財にむけた大藪古墳群の調査を実施し歴史文化遺産の継承を図りました。スポーツ環境づくりの推進については、全天候運動場及び都市公園施設について、安全性や利便性を向上させるため改修工事を行い、スポーツ施設の長寿命化を推進しました。

このたび取りまとめた「令和6年度 教育委員会の点検・評価報告書」は、令和5年度中に養父市教育委員会が取り組んだ主な施策・事業の取組状況について、点検・評価を行ったものです。この点検・評価を実施し公表することにより、市民の皆様は教育委員会の活動状況や各種教育施策の実施状況をお知らせするとともに、「第3期 養父市教育振興基本計画」の基本理念である「生きる力」を生涯学ぶまちの実現に向け、より効果的な教育施策の推進に努めてまいります。

養父市教育委員会

教育委員会の点検・評価について

養父市教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに市民への説明責任を果たすため、令和5年度事務事業の点検及び評価を実施し、その結果を報告書にまとめ、議会に提出するとともに、これを公表するものです。

※参考

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

1 趣旨

教育委員会が、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、課題や対応方法を明らかにすることにより、効果的な教育行政の推進に資するものです。

点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することにより、市民への説明責任を果たしていきます。

2 対象

点検・評価は、養父市教育委員会の「令和5年度教育推進の重点」の重点課題を基に、こども学び課5項目、教育課3項目、歴史文化財課1項目、生涯スポーツセンター1項目、学校給食センター1項目を対象といたしました。

(こども学び課・乳幼児教育)

- (1) 発達や学びの連続性を踏まえた乳幼児教育の充実
- (2) 多様な遊び・体験を通じた自立心と協同性の育成
- (3) 子どもが安心して遊べる・学べる環境の整備

(こども学び課・学校教育)

- (1) 「生きる力」を育む教育を推進する
- (2) 子どもたちの学びを支える環境を充実する

(教育課)

- (1) 「生きる力」を育む教育を推進する
- (2) 子どもたちの学びを支える環境を充実する
- (3) 主体的に生きるための学びと場の充実

(歴史文化財課)

- (1) 歴史文化遺産の整備

(生涯スポーツセンター)

- (1) スポーツ施設の長寿命化の推進

(学校給食センター)

- (1) 食育推進とともに、衛生管理を徹底し、安全、安心な学校給食を提供する

3 点検・評価の方法

(1) 評価項目 (目標)

上記の重点課題ごとの具体的な方策について評価項目にしています。

(2) 取組内容

項目ごとに実施した主な取組内容を示しています。

(3) 達成状況

A 目標が達成できた B 目標が概ね達成できた

C 目標が余り達成できなかった D 目標が達成できなかった の4段階で評価しています。

(4) 担当課評価

各事業の成果・達成状況・改善の方策等について示しています。

(5) 内部評価

自己点検・評価委員会で行った事務事業の点検・評価、達成状況の評価を示しています。

(6) 外部評価

外部評価委員会で行った検証・評価の意見及び達成状況の評価を示しています。

4 学識経験者の活用

点検及び評価を行うに当たっては、教育に関する学識経験を有する者の知見の活用を図ることにより、客観性を確保するものであり、養父市教育委員会外部評価委員会規則に基づき、5名の委員の方々から様々なご意見とご指導をいただきました。

(1) 養父市教育委員会外部評価委員会委員

役職名	氏名
委員長	政次敏博
副委員長	中川千文
委員	北村友子
委員	中島明日香
委員	小谷武史

(2) 養父市教育委員会外部評価委員会開催日

- ・ 第1回 令和6年7月19日
- ・ 第2回 令和6年7月31日
- ・ 第3回 令和6年8月20日

養父市教育委員会の令和6年度（令和5年度対象）点検・評価について

養父市教育委員会の令和6年度（令和5年度対象）の評価は、自己点検・評価委員会における評価では、33事業のうちA評価が27事業、B評価が6事業でした。外部評価委員会においてもA評価を27事業、B評価を6事業といたしました。

養父市教育推進の重点に基づき設定された各事業の評価項目について、各課・センターからの成果・達成状況・改善の方策等の説明を受け、外部評価委員からの質疑や意見交換等を行い、評価を実施いたしました。令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、様々な事業がコロナ禍以前の状況に戻りつつある中で、感染症対策を行いながら、またコロナ禍を経て改善された部分については継続しながら、各種事業が実施されました。教育委員会が行う、幅広く多種多様な施策について目標を立てて実践・検証しながら取組が進められているということや、各課で事業の遂行に尽力している様子が見えられました。

1 こども学び課の分野について

- ・発達や学びの連続性を踏まえた乳幼児教育の充実については、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について共有し、個々を尊重しながら保育が進められています。子ども自身による意思決定や、遊びを通して自分で考える力、話を聞く力等をつける取組や、自己肯定感を高めて「自分」を育てることに気を配っている様子が見えられました。また、新たに自分自身の保育を見直すための市独自のチェックシートを作成し、不適切な保育を行うことのないよう、「一人一人を大切に育てる教育・保育」が実践されています。
- ・多様な遊び・体験を通して自立と協同の態度を培う取組については、集団生活の中で協同する経験を通して人とのかかわる力をつけ、伝え合う楽しさを味わえるよう、発達段階や興味に合わせた活動が行われています。また、家庭と連携しながら、基本的な生活習慣や態度の確立についても積極的に推進されています。
- ・子どもが安心して遊べる・学べる環境づくりについては、保育ニーズが多様化する中、きめ細やかに対応されています。特に医療的ケア児の受け入れについては、関係機関とも連携しながら新たな取組として進められています。
- ・「生きる力」を育む教育の推進については、義務教育学校や小規模特認校の取組、新たに始まった「YABU スクールチャレンジ事業」等、養父市の特色ある教育を充実させることで魅力と活力のある学校づくりが推進されています。様々な事業の成果が子どもたちにしっかりと還元されるよう、取組を進めていただきたいと思っております。また、今後は、「知・徳・体」を育てる教育活動についても評価項

目としていただきたいと思います。

地域コーディネーターの配置やコミュニティ・スクールの研修を実施するなど、地域とともにある学校づくりが進められています。地域学校協働活動事業のマンネリ化については、教育効果をより高めるような展開が望まれます。

- ・子どもたちの学びを支える環境の充実については、「安心・安全」の確保、いじめ・不登校の防止、教職員の資質向上と働き方改革等、多岐にわたる内容に積極的に取り組まれています。新たに開設された養父市ほっとステーションの活用や、こどもセンターとして横断的に情報を共有したり、連携した相談体制を構築したりすることで、不登校等の防止に向けた取組をより一層充実させていただきたいです。

2 教育課の分野について

- ・教育委員会の会議運営については、教育行政推進の柱となる会議であり、事前協議を実施するなど、会議の合理的な運営や協議内容の充実が図られています。令和4年度に行われた養父市教育のあり方検討委員会の答申をふまえた事業の実施についても継続して推進し、市民に向けても情報発信していただきたいと思います。

教育委員活動については、各種行事がコロナ禍前の状況に戻っており、積極的に現場に足を運んで、教育を取り巻く現状の把握に努めておられる様子が見えました。

- ・学校施設の維持管理については、多くの学校の老朽化が進む中で緊急的な事案も増えていますが、安全な教育環境を整えるため、適切に実施されています。長い目で見た修繕計画をたて、限られた予算内で効果的な維持修繕が行われています。
- ・主体的に生きるための学びと場の充実については、市民へのスポーツ活動等の場の提供によるニーズに対応した活動の支援や、対象者による実行委員会を中心とした「二十歳のつどい」の式典実施等の事業が展開されています。

3 歴史文化財課の分野について

- ・文化財整備事業については、八木城殿屋敷地区では整備工事の進捗とともに地元の保存会によるイベントが実施されるなど、活用に向けての取組が進められており、今後トイレ等が整備されることで、更なる積極的な活用が期待されます。

上垣守国の生涯を描いた偉人マンガの製作については、養父市のふるさと教

育の上に立つ取組であり、ふるさとの偉人として市内全域に展開するための発信と活用を継続していただきたいです。

各記念館の管理運営については団体等に委託し、適正に実施されています。大庄屋記念館がドラマのロケ地となったことで養父市や施設のPRとなり、地域の活性化にもつながることが期待されます。

関宮地域局分館に課の事務所を移転するとともに、文化財資料を集約する保管庫と展示室が整備されました。今後は展示内容を充実させ、養父市の文化財の魅力積極的に発信していただきたいです。

4 生涯スポーツセンターの分野について

- ・スポーツを楽しむ環境づくりの推進については、各種スポーツ大会や教室等の主催事業が計画どおりに実施され、定着した事業となっています。スポーツに親しむことで、フレイル予防等、健康の維持にもつながるため、誰でも気軽にスポーツを楽しむ環境づくりを工夫して進めていただきたいです。また、少子化が進む中で、オリンピック競技にもなっているスケートボードやダンス等の個人競技にも取り組めるような施設があれば、子どもたちも幅広くスポーツに取り組むことができると思います。様々なニーズに対応したスポーツ振興を推進していただきたいです。

市の管理するスポーツ施設については、長寿命化計画に基づき大規模な改修工事が実施され、計画どおり完了することができています。八鹿総合体育館では空調設備が整備され、今後更なる活用が望まれます。

5 学校給食センターの分野について

- ・安全・安心な学校給食の提供については、多彩な食材を使用した魅力的なメニューを提供しており、学校給食の充実した内容がうかがえます。食育指導については学校と連携し、教材の作成や食材の皮むき等の食育体験を行うなど、給食がより身近に感じられる適切な食育指導が実践されており、学校給食が食育において重要な役割を果たしている様子がうかがえます。アレルギー対応については、多様な対応が必要になっており、ミスが発生しないようチェック体制の強化や見直しを進めていただきたいです。

施設・設備の維持管理や食中毒及び異物混入の防止、労働安全の確保については徹底した点検と衛生管理、ヒヤリハット事例やマニュアルの確認など、適正な管理運営に努められています。

お わ り に

今回は外部評価委員として2年目を迎え、1年目とはまた異なる視点で評価を実施することができました。住民として教育行政に疑問を持つことがあっても、中身を知れば知るほど、多岐にわたる事業を各担当課で丁寧に取り組み、大変な努力をされているということがよく分かりました。また、ほとんどの事業で、目標が達成できた、または概ね達成できたという達成状況であることは喜ばしいことですが、一方で課題を見つけるという視点も持ちながら事業を進めていただきたいと思います。

さて、昨今の人口減少・少子化が進む中、教育は今後ますます重要性の高まる分野になると考えられます。民間団体の調査によると、「消滅可能性自治体」として全体の4割にあたる自治体の中に養父市が上がっていますが、30年後、50年後の養父市を支える人材を育てていくには、どのように教育を充実させるかにかかっています。人間を育てるという営みがいかに重要かということ、この評価にかかわることで改めて強く感じました。

この外部評価委員会は私たちにとって、幼児教育や学校教育だけでなく、養父市の0歳から生涯にわたっての教育について一望できる、大変有意義な機会となりました。この機会を我々だけでなく、市民に共有していただくことも重要であると考えます。様々な手立てで工夫しながら、より一層情報を発信していただきたいと思います。将来の養父市をどうしていくか、子どもたちをどのように育てていくかということは教育委員会の担う大きな事業です。これからの養父市のために、行政や市民、地域も一体となって養父市の教育施策を進めていただきますようよろしくお願いいたします。

養父市教育委員会外部評価委員会

令和5年度養父市教育委員会評価調書(評価)

1 本年度の教育推進の重点

推進の重点	1 発達や学びの連続性を踏まえた乳幼児教育の充実を図る
-------	-----------------------------

2 評価項目 (目標設定)

評価項目 (目標)	取組内容
1 遊びを通した総合的な指導を行う中で、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた教育・保育課程の充実や、質の高い学びを育む。	①幼児理解に基づく、指導計画・環境構成・活動の展開等について実践・ふり返り・改善を図る。 ②園内外の研修等に積極的に参加し、専門技術を学び、教育・保育に活かす。 園内研の実施 やっぷー研修 2講座 歳児別研修会 各歳児 年1回 保育協会等研修会に参加 キャリアアップ研修 園長・主任(主幹)研修 等
2 子ども園等と小学校及び義務教育学校の連携を積極的に進め、子どもの発達を長期的な視点でとらえ、幼児教育と学校教育の円滑な接続を図る。	①5歳児を中心とし、小学校及び義務教育学校との交流を実施する ②小学校及び義務教育学校と密な関係を作り、子どもたちの様子について情報等を共有する。
3 人権感覚を磨き、人権に配慮した教育・保育を基礎に「一人一人を大切にする教育・保育」を実践する。	①不適切な保育について研修し適切な保育を行う。 ②事例・ワーク研修を2～5歳児で行う。 2グループ 計11回 ③0・1歳児研修会を行う。 ④心理士・家庭相談員・特別支援学校・エスポワールこじかななど関係機関との連携を図る。

3 担当課評価

成果・達成状況・改善の方策等 ○達成した ●達成できなかった
○園内外での研修により知識を広げ、幼児教育に対する理解を深め、実践・振り返り・改善のPDCAサイクルによって教育、保育の質の向上を図った。 ○計画通り研修を実施し保育、教育に生かすことができた。 ・各園での園内研修会の実施(月2回程度) ・やっぷー研修会(オンデマンド) 1回目「いま改めて考える子どもの人権」55名 2回目「子どもと楽しむ製作アイデア」55名 ・歳児別研修会 各歳児年1回 ・保育協会研修会(主任研修会・公立施設長研修園所長、主任研修会) ・実技研修会・但馬地区職員研修会 ・キャリアアップ研修会(年7回)
○コロナが5類となり、小学校等との交流が再開し、子どもの理解がさらに深まった。 ○入学後の引継ぎ、5歳児発達相談時の小学校教員の参加も引継ぎされており、子どもたちの情報を共有することができた。その結果、幼児教育と学校教育の円滑な接続を図った。 ○今後新たなかけはしプログラムの作成を進め、更なる連携と接続を目指す。
○目標としていた研修会を行い人権感覚を磨くとともに、自らの保育を見直し「一人ひとりを大切にする教育・保育」を実践した。 ・職員研修会「不適切な保育とはどのようなことか」(6/24オンライン)参加57名(私立含む) ・事例研修会8回 11園実施(2～5歳児) ・0・1歳児研修「0・1歳児に育てたい体の動き」 ・すくすく相談、巡回相談等必要に応じ関係機関との連携を図り子どもの理解に努めた。 ・チェックシートの活用により自身の保育の見直しを行った。

課名
こども学び課

評価者の別

<input type="radio"/>	担当課評価
<input type="radio"/>	内部評価
<input type="radio"/>	外部評価委員会評価

内部評価、外部評価の評価項目ごとの達成状況
 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

4 内部評価

自己点検・評価委員会による評価	達成状況
多くの研修を園内・園外で実施しており、計画どおり実施することができた。開催時間を工夫する等して参加のしやすい体制を整えている。また、PDCAサイクルを生かし、保育の質の向上に努めている。	A
小学校及び義務教育学校との連携については、地域の特性に合わせた取組を実施しており、情報共有や交流等を通じて幼児教育と学校教育の円滑な接続につながっている。	A
不適切保育の研修についてはこれまで各園で実施していたが、今回初めて市独自のチェックシートを作成し、それを活用することで自身の保育を見直すとともに、人権感覚を磨き取組を実践している。	A

5 外部評価

外部評価委員会による評価	達成状況
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について共有し、遊びを通して人と関わる力や自分で考える力等をつけるための多くの研修を開催し、長時間保育を実施しながらも工夫して積極的に参加している。研修会での学びがより良い保育につながっている。	A
小学校等との連携については、園児と児童の交流だけでなく、職員間での情報共有も積極的に行われており、幼児教育と学校教育の密な連携が図られている。	A
一人一人を大切にする教育・保育の実践のため、今回新たに自分自身の保育を見直すための市独自のチェックシートを作成し、不適切な保育を行うことのないよう、保育教諭それぞれの価値観で判断せず、同じ方針で保育を進められるよう取り組まれている。	A

令和5年度養父市教育委員会評価調書(評価)

1 本年度の教育推進の重点

推進の重点	2 多様な遊び・体験を通して自立と協同の態度を培う
-------	---------------------------

2 評価項目 (目標設定)	
評価項目 (目標)	取組内容
1	<p>子ども園等と家庭・地域が連携して、決まりの大切さや、してよいこと・よくないことに気づき、考えながら行動するなど、基本的な生活習慣や態度の確立に努める。</p> <p>①生活点検表などを活用し、個々の生活習慣を知る。 ②個別懇談や育児相談などを通し保護者との共通理解を深め、子どもたちの成長につなげる。 ③親子で育む「5つの生活習慣」の推奨。</p>
2	<p>協同する経験を通して、人とかかわる力や伝え合う力の育成を図る。</p> <p>①子どもたちの願いや考えを受け止め、子ども同士が共通の目的を持ち、工夫したり協力したりする活動を展開していく。 ②生活の中で心が動く体験をし、感じたことや考えたことを自分なりのことばや様々な方法で表現したり、友だちや保育者の話を聞いたりすることを通して、伝え合う楽しさを味わえるようにする。</p>
3	<p>地域の幼児、児童、高齢者との交流や地域行事への参加を積極的に進め、多様な経験を通して、心身の調和の取れた発達を促す。</p> <p>①地域ごとでの5歳児交流会の実施 ②小学校との交流 ③自治協議会等との交流 ④小動物の飼育や野菜、花の栽培</p>
4	<p>運動遊びプログラムに基づく体力づくりや園外保育、食育を通し、健康でたくましい心や体を育てる。</p> <p>①公・私立園の3歳以上を対象に運動遊びプログラムの巡回訪問指導を実施する。 ②管理栄養士による「食育だより」を毎月発行し情報発信を行う。 ③食物アレルギー・体調不良など心身の状態に応じて適切な指導、対応を行う。</p>

3 担当課評価

<p>成果・達成状況・改善の方策等</p> <p>○達成した ●達成できなかった</p>
<p>○生活点検表・個別懇談・育児相談などを通し、家庭と連携をとりながら生活習慣の確立に努めた。 保護者アンケートから生活習慣が身につけてきたとの回答があった。 ○保護者との信頼関係を築き子どもの共通理解を深めた。 ○お便りや行事ごとに「5つの生活習慣」について啓発を図った。各家庭により価値観の相違はあるが今後も発信を継続していく。</p>
<p>○子どもたちの成長・発達・興味などに合わせ日々の活動内容や環境を整え、子どもたちが自分から選択し活動できるようにした。(低年齢児であっても自分で選ぶ機会を多く作った。) また子どもが自分の持ち味を發揮しお互いを認め共通の目的に向かって協力し合えるよう工夫した。 ○年齢にあった応答をする中で発語や会話を促した。また、絵本の読み聞かせを大切に生活や遊びの中に取り入れることで想像力や聞く力を育てた。家庭にも読み聞かせの大切さを伝えた。</p>
<p>○大屋・関宮・養父地区5歳児交流会、八鹿地区5歳児交流会を実施した。 ○5.5交流をはじめ1年生との交流、業間遊びなど多くの交流を持つことができた。 ○地域との交流がしやすくなり多様な経験につながった。</p>
<p>○巡回運動遊びの実施とともに各園での朝イチ運動をはじめとし運動遊びを展開した。 ○管理栄養士による「食育だより」、園からの食育だよりなど機会をとらえ食の大切さを知らせた。 ○個々に合わせた食事提供を心がけた上で食べることの大切さを子どもたちに知らせていった。 ・キッズキッチン、食育スキルアップ、だして味わう和風の日、食事参観の実施</p>

課名
こども学び課

評価者の別

<input type="radio"/>	担当課評価
<input type="radio"/>	内部評価
<input type="radio"/>	外部評価委員会評価

内部評価、外部評価の評価項目ごとの達成状況
(A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

4 内部評価		5 外部評価	
自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価	達成状況
園と家庭との連携については、家庭ごとの価値観も様々である中、個別懇談や育児相談等を通して工夫しながら取り組んでいる。また、啓発や発信を継続していき、基本的な生活習慣や態度の確立に努めている。	A	基本的な生活習慣や態度を確立するため、早寝早起き朝ごはん等の5つの生活習慣について啓発し、家庭での取組も定着してきている。核家族化が進む中で、子どもたちが子ども園で過ごす時間が長くなってきているため、より一層、家庭と園が連携しながら進めていただきたい。	A
子どもの発達段階や興味等に合わせた活動を工夫しながら実施している。また、自ら考え選択する機会を多く創出する等、人とかかわる力や伝え合う力の育成に取り組んでいる。	A	子どもたちが集団の中で生活しながら、協同する経験を通して人とかかわる力や伝え合う力を育てるための様々な取組が行われている。	A
小学校との交流だけでなく、トライやる・ウィーク等で中学校との交流も行っており、地域自治協議会との連携・交流とも合わせて、子どもたちの多様な経験の場を創出している。	A	小中学校や自治協議会等との連携により、交流することで多様な経験を得ることができている。今後も継続して取組を進めていただきたい。	A
運動遊びについては指導員の巡回指導やケーブルテレビでの「運動遊びチャンネル」の放送等で定着した取組となっている。また、管理栄養士による「食育だより」の発行により食育について啓発する等、健康でたくましい心と体の育成に努めている。	A	運動遊びプログラムの取組については、巡回指導や各園での朝イチ運動等を通して定着しており、継続して取り組まれている。また、「食育だより」等の発行により、食育についての情報発信も積極的に行われている。	A

令和5年度養父市教育委員会評価調書(評価)

1 本年度の教育推進の重点

推進の重点	3 子どもが安心して遊べる・学べる環境づくりを進める
--------------	----------------------------

2 評価項目(目標設定)	
評価項目(目標)	取組内容
1 安心・安全な教育保育施設の整備・管理	①公立施設(認定子ども園、保育所)の適正な維持管理を行う。 ②様々な感染症対策と危機管理意識の徹底と継続を図る。
2 多様化する保育ニーズに対応するため保育士等の人材育成と確保に努める。	①様々な就労スタイルに対応するため、一時預かり保育、延長保育等を実施する。 ②待機児童数ゼロをめざし適切な保育教諭等の配置を行う。
3 子どもを事故や犯罪、災害等から守るため、各マニュアルの徹底、関係機関との連携・協力を図り、安全確保に努める。	①子ども自身が自分の命を守る行動をとることができるよう施設の安全点検、交通安全指導、避難訓練を計画的に行う。 ②食物アレルギー対応マニュアルに基づき適切な対応を行う。 ③幼児バス送迎マニュアルに基づき、安全第一に送迎バスを運行する。

3 担当課評価
成果・達成状況・改善の方策等 ○達成した ●達成できなかった
○主要建設事業4件(送迎バス・空調設備・厨房機器・複合遊具更新)、維持修繕事業4件は計画のとおり実施し保育施設の適切な維持管理を図った。 ○コロナ禍の経験から様々な感染症に対し保育が止まることへの危機意識を持ち、感染対策の徹底を図っている。
○子育て世帯の多様なニーズに対応するため一時預かりや早朝、延長保育を実施した。 ・一時預かり件数 1号認定27件、未就園児65件(1月末現在) ○保育教諭等人材が不足する中で時間パート職員の発掘、雇入れに努めた。 ○医療的ケア児の受入希望に対し子育て応援課と検討を行い6月から看護師の配置、受入を開始した。
○子どもを事故、犯罪、災害から守るため子ども自身が命を守る行動をとることができるよう指導及び定期的な訓練を行った。 ・毎月の避難訓練 年2回の通報訓練 交通安全教室 防火紙芝居の実施 ○「食物アレルギー対応マニュアル」に基づき配慮が必要な子どもには適切な対応を行った。またアレルギーに対する知識、対応力を職員が身に付けた。(キャリアアップ研修テーマ) ○すべての通園バスに置き去り防止安全装置を設置、「幼児バス送迎マニュアル」とともにルールを遵守し安全管理を徹底した運行に努める。

評価者の別

課名
子ども学び課

<input type="radio"/>	担当課評価
<input type="radio"/>	内部評価
<input type="radio"/>	外部評価委員会評価

内部評価、外部評価の評価項目ごとの達成状況
 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

4 内部評価	
自己点検・評価委員会による評価	達成状況
送迎バスや空調設備等の更新などの維持修繕についてはすべて計画どおり実施することができており、適正な維持管理に努めている。またコロナ禍を経て、感染症対策の徹底についても継続して行っている。	A
保育ニーズの多様化に対応し、一時預かり保育や延長保育等を実施しており、時間パート職員の雇用や潜在保育士の発掘等、人材確保に努めている。また、医療的ケア児の受け入れについて、新たな取組として開始している。	A
子どもの安全確保のため、各種マニュアルを作成し、徹底して取り組んでいる。また、今回新たに置き去り防止安全装置を全ての通園バスに設置し、更なる安全運行に努めている。	A

5 外部評価	
外部評価委員会による評価	達成状況
安心・安全な教育保育施設を維持するため、適正な維持管理とともに計画的な修繕が実施されている。また、感染症についても危機意識を持ち、徹底した対策が継続して行われている。	A
個々の多様なニーズに対して、きめ細かな対応がなされており、人材の確保や発掘にも尽力されている様子がうかがえる。新たな取組である医療的ケア児の受け入れについては、マニュアルを作成する等関係機関とも連携して取り組まれている。	A
子どもたちの安全を確保するため、避難訓練や交通安全教室を実施し、意識づけに努めている。通園バスでの置き去り防止については、安全装置を設置した。今後はカメラの設置等、事故を起こさないための仕組みづくりがである。	A

令和5年度養父市教育委員会評価調書(評価)

1 本年度の教育推進の重点

推進の重点	1 「生きる力」を育む教育を推進する
-------	--------------------

2 評価項目 (目標設定)	
評価項目 (目標)	取組内容
1 魅力と活力ある学校づくりを推進する。	①小中一貫教育、義務教育学校の教育活動の充実を図り、学力の向上を図る。 ②小規模特認校など小規模校の教育活動を工夫する。 ③「YABUスクールチャレンジ事業」により特色ある学校づくりを推進する。
2 地域とともにある学校づくりを推進する。	①地域コーディネーターの配置によりコミュニティ・スクールを充実させるなど、学校・家庭・地域の連携・協働を図る。 ②兵庫型「体験教育」や「やぶ・ふるさとキャリア教育」を推進する。 ③部活動の地域移行と合同部活動を推進する。
3 児童生徒一人一人に応じた教育と支援の充実を図る。	①特別支援教育の充実を図る。

3 担当課評価
成果・達成状況・改善の方策等
○達成した ●達成できなかった
○義務教育学校では、前期・後期課程の相互の乗り入れ授業により、後期課程の免許外担任の解消前期課程の教科担任制が実現した。 ○大屋小・中学校で兼務発令による音楽の乗り入れ授業を実施した。 ○小規模特認校の新規の就学者が3人あった。(45人中17人が特認校制度利用児童) ○特認校の卒業生の通学補助制度を設けた。 ●小規模特認校の複式学級解消ができなかった。 ○小規模校同士のオンライン授業の要件緩和に向けて、国に働きかけた。 ○10校が「YABUスクールチャレンジ事業」によりドローン体験など新たな教育活動を実施した。 ○今後、全ての学校で内容の充実を図っていく。
○地域コーディネーターを5校にモデル配置し、地域学校協働活動を行った。 ○コミュニティ・スクール研修会を1回実施し、委員の資質向上を図った。 ○放課後子ども教室を全ての小学校等で行った。 ●地域との活動がマンネリ化している例もある。 ○演劇ワークショップ、青書院塾、山の学校を全ての学校で実施した。 ●防災講座の内容が不十分であった。 ○部活動検討会議を1回実施するとともに、地域移行アンケート、説明会を実施した。 ○吹奏楽部などで合同部活動を試行した。 ○部活動指導員を7人から9人に増員した。 ●地域移行の全体像が示せていない。
○通級指導の教員を5人から6人に増員し、指導の充実を図った。 ○指導補助員を13人配置し、要支援児童生徒の支援を行った。 ○県立特別支援学校から講師を招聘し、児童生徒への指導に関する相談などを実施した。

課名
こども学び課 (学校教育G)

評価者の別	
<input type="radio"/>	担当課評価
<input type="radio"/>	内部評価
<input type="radio"/>	外部評価委員会評価

内部評価、外部評価の評価項目ごとの達成状況
 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった
 D目標が達成できなかった)

4 内部評価	
自己点検・評価委員会による評価	達成状況
小中一貫教育や義務教育学校の乗り入れ授業等の推進により、教育活動の充実を図っている。また、義務教育学校での成果を踏まえ、各校へ取組を広げている。複式学級を全て解消することはできなかったものの、新規の就学者もあり、小規模特認校の成功事例となっている。新たに「YABUスクールチャレンジ事業」を開始し、各校の特色を生かした教育活動を展開している。	A
地域コーディネーターの配置やコミュニティ・スクール研修会の実施等、地域と学校、家庭の連携推進を図っている。活動のマンネリ化については、行事をただこなすだけではなく、地域連携の当初の意義を踏まえた取組の推進が必要である。部活動の地域移行については、部活動指導員の配置や検討会議の実施、アンケートや説明会の実施等、移行に向けた取組が進められているものの、課題もある中で全体像を示すことが難しい状況であるため、今行っている事業を充実させながら、地域移行の方針についても検討していく。	B
通級指導教員の増員や指導補助員の配置等、児童生徒一人一人に対応した教育・支援を実施している。また、県立特別支援学校と連携し、相談体制を整えている。	A

5 外部評価	
外部評価委員会による評価	達成状況
義務教育学校の取組については、義務教育の9年間を全体で見育てることの効果は大きい。小・中学校で子どものあるべき姿の共有や乗り入れ授業等を実施するなど、各校でも小中一貫教育の新たな展開を進めていただきたい。「YABUスクールチャレンジ事業」では、各学校で課題に応じた研修を行う等、特色ある学校づくりとともに新しい教育活動が進められている。	A
地域コーディネーターをモデル配置し、地域と学校をつないで地域学校協働活動を実施しているが、事業のマンネリ化も見受けられるため、教育効果をより高めるような展開が必要である。部活動の地域移行については、部活動指導員の配置や地域クラブへの移行等、様々な取組が進められている。今後更に少子化が進み、色々な課題が出てくると考えられるが、部活動等を頑張っている子どもたちを支援する体制を整えていただきたい。	B
特別支援教育の充実については、通級指導教員の増員や指導補助員の配置等、手厚く実施されている。今後一層、児童生徒理解が重要であり、見る目を増やす取組を継続していただきたい。	A

令和5年度養父市教育委員会評価調書(評価)

1 本年度の教育推進の重点

推進の重点	2 子どもたちの学びを支える環境を充実する
-------	-----------------------

2 評価項目 (目標設定)	
評価項目 (目標)	取組内容
1 「安心・安全」の確保に向けた環境整備等の充実を図る。	①新型コロナウイルス感染症対策を講じるとともに、ポストコロナに向けた教育活動等を展開する。 ②通学路安全プログラムに基づく通学路の安全確保を図る。 ③防災教育を実施する。 ④情報モラル教育の充実を図る。
2 いじめ・不登校等の防止に向けた取組を推進する。	①いじめ防止基本方針に基づくいじめの未然防止、早期発見、早期対応を図る。 ②不登校の未然防止と支援の充実を図る。 ③子育て応援課と連携した教育相談体制の充実を図る。
3 教職員の資質・能力の向上と働きがいのある環境づくりを推進する。	①「YABUスクールチャレンジ事業」等により教職員の実践的指導力の向上を図る。 ②教職員の働き方改革により児童生徒と向き合う時間を確保する。

3 担当課評価
成果・達成状況・改善の方策等
○達成した ●達成できなかった
○感染症対策を徹底し学校教育活動を行った。 ○養父市・パース市交流事業を再開した。 ○土曜学習教室を毎週土曜日に行った。 ○市PTCAフォーラム、子連協の行事などの再開に向けて団体を支援した。 ○通学路の合同点検の実施、対策検討会議での検討により、安全確保に努めた。 ●対策が来年度以降になる箇所がある。 ○児童生徒が、地域の防災訓練に参加した。 ○珠洲市の災害派遣について校長研修を行った。 ○情報モラル教材を導入するとともに、SNSルールポスターを新入生に配布し啓発に努めた。 SNSに係るトラブルは潜在化しており、家庭とのより一層の連携に努めていく。
○いじめ認知件数が小30件、中23件と、昨年度より中学生で減少した。(1月末) ○いじめ対応マニュアル等を活用し、未然防止、早期発見、早期対応に努めた。 ●不登校人数が小15人、中31人と、昨年度(小16人、中23人)より中学生で増加した。(2月末) ○養父市ほっとステーションと連携し、不登校児童生徒の居場所づくりを努めた。 ●全ての不登校児童生徒に支援が行き届いていない。R6年度は、校内サポートルームに地域人材を配置し、支援のより一層の充実を努める。 ○こどもセンターとして、情報共有に努めた。 ○スクール・シャワー・カーを各中学校区に配置し、相談体制の充実を図った。件数 小3件、中25件
○8校が「YABUスクールチャレンジ事業」により校内研修を充実させた。 ○教員向けに教育書読み放題サービスを始めた。 ○全ての学校にスクール・サポート・スタッフを配置したりGIGAスクールサポーターを派遣したりして、教職員の業務をサポートした。

課名
こども学び課 (学校教育G)

評価者の別	
○	担当課評価
○	内部評価
○	外部評価委員会評価

4 内部評価		5 外部評価	
自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価	達成状況
コロナ禍を経て、感染症対策を講じながらポストコロナに向けて多くの行事を再開している。 通学路の安全プログラムに基づき、関係機関と連携した通学路点検を実施している。また、能登半島地震による珠洲市への災害派遣職員による校長研修を行う等、防災教育についても機会をとらえ充実を図った。	A	様々な交流事業やPTCAフォーラム等を再開し、感染症対策を講じながら教育活動や各種団体活動の支援が行われている。 通学路の安全対策や防災教育、防災訓練等、事故や自然災害に備えて前もってできる対策については積極的に講じておく必要がある。 SNSによるトラブルは保護者も気づきにくいやりとりの中で発生するため、情報モラル教育をより充実していただきたい。	A
養父市ほっとステーションの開設により、関係機関と連携しながら、不登校児童生徒の居場所づくりとして手厚い支援を行っている。今後は校内サポートルームを設置し、より充実した支援体制を整えていく。 いじめの未然防止や早期発見・早期対応については各学校で積極的認知に取り組んでいる。今後も最善を目指した取組を推進していく。	B	いじめの積極的認知については、些細な事案でも感受性を高めて拾い上げ、職員全体できめ細やかな対応に努めている。 ほっとステーションの活用や、こどもセンターとして横断的に情報を共有したり相談体制を構築したりすることで、不登校等の防止を図るとともに、対象児童生徒への支援をより一層推進させていきたい。	B
新たに「YABUスクールチャレンジ事業」を実施し、教職員の実践的指導力向上を図っている。また、スクールサポートスタッフ等の配置により、教職員の負担軽減に寄与している。	A	「YABUスクールチャレンジ事業」により、各学校の課題に応じて先進校視察等を行う等、新しい形での校内研修の充実が図られている。	A

令和5年度養父市教育委員会評価調書(評価)

1 本年度の教育推進の重点

推進の重点	「生きる力」を育む教育を推進する
-------	------------------

2 評価項目 (目標設定)	
評価項目 (目標)	取組内容
1 教育委員会の会議等運営を行い、教育行政の推進を図る。	①月1回の定例会議を開催し、教育行政に必要な議案の審議等を行う。 ②事務局として議案等を精査し議事進行の調整を図る。 ③所管する会議の日程調整や議事録の作成を行い公開することで開かれた教育委員会をめざす。
2 教育委員活動の支援	①学校園、教育施設の訪問を積極的に行い教育現場の現状把握を進める。 ②市が実施する施策や教育行政に関する研修を実施し教育委員として必要な情報を提供、共有していく。 ③必要に応じて総合教育会議の調整を行い、教育課題について市長と協議し、相互連携を進める。

3 担当課評価
成果・達成状況・改善の方策等
<ul style="list-style-type: none"> ○達成した ●達成できなかった
<p>○毎月の定例会の実施とともに事前協議を行い、喫緊の教育課題についての知識と理解を深めるとともに会議の円滑化と活性化を図った。</p> <p>また、教育のあり方検討委員会答申を受けての取組等についても逐次報告を行い共有を図った。</p> <p>○関係する規則等の制定や改正について提案し、慎重審議の上の承認を経て、公布を行った。</p> <p>・議案等審議 (12件) (R4年度7件)</p>
<p>○学校園への訪問はコロナ前の状態に戻り授業等視察、視察後には指導助言や意見交流を行い学校園の課題や現状を把握することができた。</p> <p>・学校訪問 7校 (R4年度6校)</p> <p>・自然学校視察 1日 (R4年度1日)</p> <p>・校長面談 期中期末2回5日 (R4年度2回5日)</p> <p>・学校園入学式 各1名 (R4年度各1名)</p> <p>・学校園卒業式 各1名 (R4年度各1名)</p> <p>・運動会 来賓として訪問は無し</p> <p>・研修会 5回 (R4年度5回)</p> <p>○総合教育会議は直面する教育課題について市長と協議、意見交換を行った。2回実施 (R4年度2回)</p>

課名
教育課 (総務グループ)

評価者の別	
<input type="radio"/>	担当課評価
<input type="radio"/>	内部評価
<input type="radio"/>	外部評価委員会評価

4 内部評価		5 外部評価	
自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価	達成状況
定例会議の開催に合わせ、事前協議を実施することで、会議運営の円滑化、協議内容の深化、活性化につながっている。また、教育のあり方検討委員会答申を受けての取組等についても積極的に情報共有を行っている。	A	教育委員会の会議運営については事前協議等の実施により円滑な会議運営が行われている。教育のあり方検討委員会答申を受けた取組については今後も継続して進めていただきたい。	A
学校訪問については開催方法を改善し、充実した指導助言や意見交流を行うことができている。また、研修会等にも積極的に参加し、喫緊の教育課題についての研鑽を深めている。	A	学校園への訪問や視察、式典への参加等はコロナ前の状況に戻っており、充実した指導助言や意見交流を実施している。各種研修会についても従来の状況に戻り、積極的に参加することで昨今の教育を取り巻く現状の把握に努めている。	A

内部評価、外部評価の評価項目ごとの達成状況
 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった
 D目標が達成できなかった)

令和5年度養父市教育委員会評価調書(評価)

1 本年度の教育推進の重点

推進の重点	子どもたちの学びを支える環境を充実する
-------	---------------------

課名	評価者の別
教育課（管理グループ）	○ 担当課評価
	○ 内部評価
	○ 外部評価委員会評価

内部評価、外部評価の評価項目ごとの達成状況
 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった
 D目標が達成できなかった)

2 評価項目（目標設定）	
評価項目（目標）	取組内容
1 学校施設等の良好かつ適正な維持管理に努め、安心・安全を第一に効果的な施設維持修繕を行う。	①学校施設の老朽化が進み、緊急的な対応が増える中、事故の未然防止と緊急対応の体制を図る。 ②長寿命化改修（部位修繕）として課題であったトイレの洋式化、教室等の照明LED化工事等を順次進める。 (R5実施予定) ・広谷小（LED化） ・関宮学園前期（空調改修） ・大屋小、建屋小、高柳小、伊佐小、関宮学園前期、八鹿青溪中（体育館トイレ洋式化） ③そのほか、学校運営に必要な不可欠な修繕、備品等、効果的に整備を進める。
2 ICTを活用した新しい学びへの支援を行う。	①教育情報化計画に基づき新しい学びに適したICT環境の整備を行う。 ・校務支援システムの導入 ・ネットワーク機器の更新 ・GIGAスクールサポートセンターを設置しICTに関する問題に迅速に対応する。 ・デジタル教材を積極的に取り入れタブレットの効果的な利用を進める。

3 担当課評価
成果・達成状況・改善の方策等
○達成した ●達成できなかった
○学校施設の維持管理に係る修繕は緊急対応の事案もあったが、特別枠の修繕等早めの対応により年度内に終了することができた。 ○長寿命化改修については、配線部材等の遅れがあったが、予定していた工事は年度内に終了することができた。 ○学校からの求めに応じ、学校運営に必要な修繕や備品については優先順位を見極め、公正かつ効果的に整備するよう努めた。
○ICTに係る備品整備（ネットワーク機器等）は予定どおり行うことができた。整備後の学校への活用支援等も実施した。 ○GIGAスクールサポートセンターを設置し学校のICTに関わる困りごとや研修対応など行った。当初は学校により活用に偏りが見られたため要請や問い合わせのみの対応だけでなく周知や定期訪問、活用研修を行い利用促進を図った。 ICTを活用した授業への取組が見られた。 ・訪問回数190回

4 内部評価	
自己点検・評価委員会による評価	達成状況
学校施設等の維持修繕については、施設によって状況も異なる中、緊急的な修繕にも対応しつつ、計画的に実施している。部材等の遅れもあったが、予定どおり工事を実施することができている。限られた予算内で工夫をしながら、学校の要望に対応した施設・備品の整備に努めている。	A
ICTを活用した新しい学びを支援するため、計画に基づいた整備を予定どおり実施することができている。GIGAスクールサポートセンターの設置により、学校での活用の促進や問題への対応を積極的に支援している。今後も継続した支援体制を整えていく。	A

5 外部評価	
外部評価委員会による評価	達成状況
学校施設の維持管理については、多くの学校の老朽化が進む中で緊急的な事案も増えているが、安全な教育環境を整えるため、適切に実施されている。長い目で見た修繕計画をたて、限られた予算の中で効果的な維持修繕が行われている。	A
ICTの活用については、校務支援システムの導入やGIGAスクールサポートセンターの設置、必要な機器を更新する等、新しい学びのための効果的な活用の支援が実施されている。今後も更に積極的に活用するための支援を継続していただきたい。	A

令和5年度養父市教育委員会評価調書(評価)

1 本年度の教育推進の重点

推進の重点	歴史文化遺産の整備
-------	-----------

2 評価項目 (目標設定)	
評価項目 (目標)	取組内容
1	<p>歴史文化遺産を継承するため、国や県の補助事業等を利用して文化財整備事業を実施する。さらに、埋蔵文化財の調査を実施する。</p> <p>①八木城跡殿屋敷地区及び重要伝統的建造物群保存地区(大屋町大杉地区)における計画的な整備を実施する。</p> <p>②建築確認申請や開発工事等に伴う埋蔵文化財包蔵地の取り扱いに対応し、必要な調査を実施する。</p> <p>③青谿書院記念館の前にトイレ・交流休憩・展示等の機能を有する休憩施設と駐車場を新たに整備し、記念館の有効活用を図る。</p>
2	<p>市民団体による県指定文化財等の保存活動を支援する。さらに、市民に対して文化財情報を発信し市内の文化財を顕彰する。</p> <p>①伝統芸能を継承する団体をはじめ、文化財保護団体等が行う活動を支援する。</p> <p>②ホームページ等を利用して文化財情報を発信し、日本遺産推進協議会等と連携して各種のPR事業を実施する。</p> <p>③上垣守国の生涯を描いた偉人マンガを製作し市民に周知する。</p>
3	<p>市が設置する文化財施設を適正に管理することで、市民が文化財や歴史を学習する場を提供する。</p> <p>①市立施設等の管理 大庄屋記念館はシルバー人材センターへ委託し、青谿書院記念館は宿南地区自治協議会へ委託して管理する。 上垣守国養蚕記念館及びかいこの里、山田風太郎記念館は指定管理者により適正に管理運営を行うよう指導する。</p> <p>②国指定文化財等の管理 八木城跡・箕谷古墳群・樽見の大桜等、市が所有する文化財を利用した歴史公園を管理する。</p>
4	<p>課の事務所を関宮地域局分館に移動し、文化財資料の集約と展示を行う。</p> <p>①令和5年中に事務所を移動し業務を開始する。</p> <p>②2階文化財保管庫に中量ラックを整備し、廃校等で保管している文化財資料の集約に着手する。</p>

3 担当課評価

<p>成果・達成状況・改善の方策等</p> <p>○達成した</p> <p>●達成できなかった</p>
<p>○八木城跡殿屋敷地区の東堀を中心に整備工事を実施し、対象地の約87%の面積が完成した。隣接地に駐車場、トイレ・ガイダンス施設の整備に着手した。大杉地区は伝統的建造物である納屋1棟の修理工事を支援し完了した。</p> <p>○建築確認申請や工事に伴う照会に回答した。一部の遺跡では現地調査を実施し、兵庫県教育委員会と協議した。</p> <p>●青谿書院記念館の休憩施設及び駐車場の整備工事に着手したが、設計に時間を要したこと等により発注が遅れ、令和6年度に繰り越し、7月完了見込みとなった。</p> <p>○補助金交付による支援を行う地域の活動団体を1団体追加した。</p> <p>○HP等での情報発信に努め、巡回展に協賛して展示協力、イベントへの出展を行った。関宮公民館ロビーで巡回展の展示を行った。</p> <p>○マンガふるさとの偉人「上垣守国」を発刊。今後、市内の全小中学生に配布し授業で活用。図書館配架やデジタルデータ公開により一般にも周知を図る。</p> <p>○記念館の2施設を管理した。大庄屋記念館では昨年に続きドラマのロケを受け入れた。青谿書院記念館は小学校、中学校、義務教育学校の団体見学により見学者が増加している。</p> <p>○かいこの里については、運営形態を学習施設に転換することに伴い、展示用備品等の整備を行った。山田風太郎記念館については、手書き原稿等の貴重な資料を収蔵するための耐火保管庫を整備した。</p> <p>○市が所有する八木城跡・箕谷古墳群・とが山古墳群・堀畑1号墳の歴史公園を適正に管理し、樽見の大桜樹勢回復作業を実施した。</p>
<p>○計画通りに移動を完了した。(12月～業務開始)</p> <p>○ラックは年度内に整備し、来年度から資料の集約を開始する。移動に伴い1階図書室奥の文化財展示室に仮の展示を行った。</p>

課名	評価者の別		
	○ 担当課評価	○ 外部評価委員会評価	
歴史文化財課	○ 内部評価		
<p>内部評価、外部評価の評価項目ごとの達成状況 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)</p>			
4 内部評価	達成状況	5 外部評価	
自己点検・評価委員会による評価		外部評価委員会による評価	
文化財整備事業については、八木城殿屋敷地区や大杉伝統的建造物群の整備等、国県の補助を活用しながら計画的に進められている。青谿書院記念館の休憩施設・駐車場の整備については、年度内に工事を完了することができなかった。	B	八木城殿屋敷地区では整備工事の実施とともに地元の保存会によるイベントが実施される等活用に向けて進んでおり、今後のトイレ等の整備で更に積極的な活用が期待される。青谿書院については市内の子どもたちが訪問している施設であり、整備を進めて有効な活用をお願いしたい。	B
文化財の魅力について情報発信することにより、大事にしたり興味を持って足を運んでもらう等、保存活動や顕彰につながっている。偉人マンガについてはすばらしい作品が完成した。今後は積極的な発信と活用を図っていく。	A	市民団体による文化財保存活動については、地域の力を維持するためにも継続していただきたい。偉人マンガ製作については、ふるさと教育の上に立った取組であり、ふるさとの偉人として市内全域に広げる取組が展開されている。	A
記念館の管理運営については、委託や指定管理により適正に実施している。ロケの受け入れによる効果で、入客も増加している。国指定文化財等の管理についても、歴史公園の管理や樽見の大桜の樹勢回復等、適正に実施している。	A	各記念館の管理運営については団体等に委託し、適正に実施されている。大庄屋記念館がドラマのロケ地となったことで、地域の活性化やPRにもつながっている。養蚕記念館でもイベントが実施されており、地域おこし協力隊や伝建地区とも連携しながら更なる活用を図っていただきたい。	A
事務所を移転し、文化財保管庫や展示室を整備している。今後、資料の集約や展示を行い、文化財情報の発信を行っていく。	A	計画どおりに事務所を移転するとともに、文化財資料の集約と仮設の展示が実施されている。今後、更に充実させていきたい。	A

令和5年度養父市教育委員会評価調書(評価)

1 本年度の教育推進の重点

推進の重点	スポーツ施設の長寿命化の推進
-------	----------------

2 評価項目 (目標設定)	
評価項目 (目標)	取組内容
1	<p>それぞれの体力や年齢に応じて、だれでも、いつでも、どこでも、いつまでも気軽にスポーツを楽しむことができる環境づくりを進める。</p> <p>①各種スポーツ大会 「イヌワシ駅伝」「グラウンドゴルフ大会」「フットサル大会」など</p> <p>②各種教室 「陸上教室」「テニス教室」「フットサル教室」など</p> <p>③レクリエーションスポーツの普及</p> <p>④スーパーアスリート事業</p> <p>⑤体力測定会の実施</p>
2	<p>養父市スポーツ協会などの自主的、継続的な活動に対する支援やジュニアスポーツ団体等が安全で安心して活動できるよう支援する。</p> <p>①養父市スポーツ協会や各種目協会と連携し「スポーツフェスティバル」を開催</p> <p>②スポーツクラブ21に対する支援</p> <p>③こどもスポーツ安全保険補助や近畿大会規模以上の大会出場の交通費補助</p>
3	<p>スポーツ施設が将来にわたり安全で安心して利用できるよう、全天候運動場、八鹿総合体育館等の長寿命化改修工事を行う。</p> <p>①全天候運動場の長寿命化改修工事</p> <p>②八鹿総合体育館等の長寿命化改修工事</p>
4	<p>ワールドマスターズ開催に向け、養父市で開催予定のオリエンテーリング競技について、体験会の開催等により、競技の普及やPRを行う。</p> <p>①2027年5月開催に向けた機運醸成を図るため、オリエンテーリング体験会などを実施</p>

3 担当課評価

<p>成果・達成状況・改善の方策等</p> <p>○達成した</p> <p>●達成できなかった</p>
<p>○「イヌワシ駅伝(27チーム、132人、スタッフ60人、合計192人)」「グラウンドゴルフ大会(個人戦90人)」「フットサル大会(8チーム、85人)」など計画した事業は全て実施できた。</p> <p>○「陸上教室(全3回 小学生高学年述べ32人、小学生低学年延べ49人)」「テニス教室(全4回延べ63人)」「フットサルクリニック」、新たに今年度ALTの先生とフットサル体験会(16人)を実施した。</p> <p>○「レクリエーションスポーツのあれこれ」や文化祭やY Bファブの夏フェスでレクリエーションスポーツの普及を図った。</p> <p>○スーパーアスリート事業として、川崎重工明石ソフトテニス部を招聘し、実施した。</p> <p>○旧町単位で体力測定会(43人)を実施した。</p> <p>●養父市スポーツ協会と連携し、「スポーツフェスティバル」を開催したが、一部中止となった大会があった。</p> <p>○スポーツクラブ21の基金管理や活動支援を行った。スポーツ21養父市連絡協議会主催のグラウンドゴルフ大会を実施できた。</p> <p>○こどもスポーツ安全保険の補助を行った。大会出場補助については「野球」「テニス」「太鼓」「バレー」の大会に出場する団体、個人に助成した。</p> <p>○全天候運動場の長寿命化改修工事は令和5年12月に完了済み。八鹿総合体育館等の長寿命化の改修工事は令和6年3月に完了予定。</p> <p>○オリエンテーリング体験会をY Bファブの夏フェスで実施。また今年度は子連協のドッジボール大会に替わりオリエンテーリング体験会を行った。</p> <p>●2027年ワールドマスターズ開催に向け、更なる競技の普及とPRが必要である。</p>

課名
生涯スポーツセンター

評価者の別

<input type="radio"/>	担当課評価
<input type="radio"/>	内部評価
<input type="radio"/>	外部評価委員会評価

内部評価、外部評価の評価項目ごとの達成状況
(A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

4 内部評価		5 外部評価	
自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価	達成状況
<p>主催する各種スポーツ大会については、全て計画どおり実施することができ、継続した事業として定着している。各種教室についても、新たなスポーツに取り組むことで、市民のスポーツに対する関心や意識の向上につながっている。今後も積極的にPRし、参加人数を増やす取組を進める。</p>	A	<p>各種スポーツ大会や教室等の主催事業については計画どおりに実施され、定着した事業となっている。今回初めてフットサル体験会を実施する等、新たな取組も実施されている。気軽にスポーツを楽しむことで、フレイル予防等にもつながるため、敷居を低くしてスポーツを楽しむことができる環境づくりを工夫して進めていただきたい。</p>	A
<p>市スポーツ協会等と連携し、スポーツフェスティバルを開催したが、一部計画どおりに実施できなかった。また、各種スポーツ団体の自主的な活動を支援し、安全・安心なスポーツ活動等の継続に寄与している。</p>	B	<p>スポーツフェスティバルについては、一部チーム数の減少等で開催できない種目があった。市内だけでは大会の開催が難しい種目については市外との交流も視野に入れ、開催方法を見直すことも検討していただきたい。</p>	B
<p>各スポーツ施設の維持管理については、今後も安全・安心に利用できるよう、長寿命化計画に基づき、計画的に改修を実施しており、計画どおり改修を完了することができた。</p>	A	<p>各スポーツ施設が今後も安全で安心して利用できるよう、長寿命化計画に基づき計画的な改修に努めている。八鹿総合体育館では空調設備が整備され、今後の活用が望まれる。</p>	A
<p>ワールドマスターズゲームズの開催に先立ち、各種イベントで機会をとりながら体験会を実施した。今後も更なる普及とPRが必要である。</p>	B	<p>オリエンテーリング体験会の実施等、2027年の開催に向けたPR活動が行われている。市民も参加可能な大会であり、今後もPRに努めていただきたい。</p>	B

令和5年度養父市教育委員会評価調書(評価)

1 本年度の教育推進の重点

推進の重点	食育推進とともに、衛生管理を徹底し、安全、安心な学校給食を提供する。
-------	------------------------------------

2 評価項目 (目標設定)	
評価項目 (目標)	取組内容
1 学校給食の充実と教育活動全体を通じた食育の推進	<p>①衛生管理を徹底して、安全、安心な学校給食を提供する。</p> <p>②成長期の子どもの健康の保持増進、心身の発達と望ましい食習慣の形成を図るため、学校給食の充実と食に関する指導の充実を図る。</p> <p>1) 栄養教諭(栄養職員)による食育指導 2) 学校給食を活用した意識啓発・やっぷメニュー、かむかむ給食、食育の日、はばたん給食の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食だより、献立表の配布 ・食育体験(食材の皮むき等) ・夏休みクッキング教室 ・こども園への出前講座 ・子どもが作る弁当の支援 ・学校での試食会の開催 ・給食センターの見学・試食会の開催 <p>③食物アレルギー対応の実施 ④但農給食の取組</p>
2 学校給食センターの適正な管理・運営	<p>①施設・設備の維持管理と運営 ・デマンドによる管理で適正な電気使用量に努める。 ・定期点検や必要な修繕を行い、各種設備機器の維持管理に努める。</p> <p>②衛生管理を徹底し、食中毒予防や異物混入防止を図る。 ③職場の労働安全の確保</p>
3 学校給食での有機野菜活用と地産地消の取組	<p>①有機野菜の調達と地産地消の推進を図る。</p>

3 担当課評価

<p>成果・達成状況・改善の方策等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○達成した ●達成できなかった
<p>○新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、全校休校は減少した。給食提供食数の変更はあったが衛生管理を徹底し給食を提供した。</p> <p>○多くの食材を使用した手作り給食を提供し、学校給食の充実とに努めた。旬の地場産物の使用は、食材への関心と生産者への感謝の心を育み、食育推進につながるものとして活用した。</p> <p>○1人減となったが、栄養教諭による給食指導や食育指導は学校と連携して実施できた。</p> <p>○情報課と共同制作している調理番組「おうちでつくろう学校給食」を5回収録し放送した。</p> <p>●医師の指示のもと保護者や学校と連携し事前確認を徹底し食物アレルギー対応を適切に行うよう心がけたが、記入のミス等があった。</p> <p>○栄養や望ましい食習慣等、食育について児童生徒、保護者等に情報提供を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・献立表・給食だよりの発行11回 (R4年11回) ・ひとくちおたよりの発行(給食提供日毎日) ・食育指導(授業時間)96時間 (R4年144時間) ・給食指導(給食時間)116回 (R4年156回) ・食育体験8小学校 (R4年8小学校) ・給食センター見学4回 (R4年1回) ・こども園出前講座10回 (R4年10回) <p>○第9回養父市学校給食コンテスト及び但農給食の取組を継続し、実施した。</p> <p>○各種設備機器の日常点検と定期点検を強化的に実施し、必要な部品交換、修繕を行った。</p> <p>○外階段の完成により、センター屋上の空調や蒸気の設備に異常がないか確認を1日2回行った。</p> <p>○食中毒予防や異物混入防止に努めるとともに、ヒヤリハット事例を全職員で確認し、事故予防に努めた。</p> <p>○H31年4月に認定を受けた食品衛生管理プログラム(兵庫県版HACCP)を基に、引き続き衛生管理の徹底に努めた。</p> <p>○配送マニュアルの確認や交通安全研修を全職員に行った。</p> <p>○学校給食用食材の納入業者登録を基に、食材調達を適切に行うように努めた。</p> <p>○市内の新規就労者の有機栽培野菜の使用率は、野菜全体の約4%の実績見込となる。ピーマン・ほうれん草・にんじん・なす・かぶ・大根・みずな・春菊を使用した。</p>

課名	評価者の別
学校給食センター	<input type="radio"/> 担当課評価
	<input type="radio"/> 内部評価
	<input type="radio"/> 外部評価委員会評価

内部評価、外部評価の評価項目ごとの達成状況
(A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

4 内部評価		5 外部評価	
自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価	達成状況
<p>学校給食の充実については、休校等による食数の変更に対応しながら、多種の食材を使用した安全・安心な給食の提供に努めている。情報課と連携して制作している「おうちでつくろう学校給食」については、充実した内容で、学校給食について地域の方にも知っていただくよい機会となっている。</p> <p>アレルギー対応については学校や保護者と連携を密にし、ミスを発生させないような仕組みづくりが必要である。</p>	B	<p>安全・安心な学校給食の提供については、衛生管理を徹底しながら推進している。食育指導については学校と連携し、教材の作成や食材の皮むき等の食育体験を行うなど、給食が身近に感じられる適切な食育指導が実施されている。</p> <p>また、季節に合わせた献立の提供等、家庭での食育や体験を補う部分もあり、学校給食が児童生徒の成長に重要な役割を果たしている。</p> <p>アレルギー対応については多様な対応が必要になっており、ミスを発生させない、チェック体制の強化等の見直しを進めていただきたい。</p>	B
<p>施設な適正な管理・運営については、設備機器等の点検を徹底して行い、必要な修繕等を実施している。</p> <p>兵庫県版HACCPに基づく衛生管理や異物混入防止についても徹底して行っている。</p>	A	<p>施設の維持管理については、日常点検と定期点検の強化的な実施により、適正に行われている。</p> <p>ヒヤリハット事例の共有等、衛生管理の徹底や労働安全の確保にも努め、適正な管理運営が行われている。</p>	A
<p>市内産の有機野菜を調達して地産地消に取り組むとともに、オーガニックピレージの取組にも寄与している。</p>	A	<p>有機野菜の使用により、地産地消にも積極的に取り組んでいる。今後も継続して地産地消を推進していただきたい。</p>	A